

▲ ▼ 2022 ミス日本「海の日」属安紀奈さん ▼ ▲ ⑧ 九州の港と観光の魅力を発信

国土交通省九州運輸・観光クリエイターに就任

私は先日、九州の運輸や観光の元気に繋がる発信をする役割を担う国土交通省九州運輸・観光クリエイターに就任しました。九州は、山口県出身の私にとって、幼い頃から様々な観光を楽しんだ思い出の場所でもありますので、このようなご縁をいただけたことを大変うれしく思います。就任した際に訪れた博多港と、そこから出入港する旅客船について、その魅力を皆様にお伝えしたいと思います

◆物流と海外交流の窓口・博多港

■日本と世界を結ぶ博多港

博多港は、1899年に開港指定され国際貿易港としてスタートしました。

第二次世界大戦後には、海外に残された600万を超える日本人を帰国させる引き揚げ事業で引き揚げ援護港に指定され、博多港は約139万人の引き揚げ者を迎え入れました。博多港が物流の窓口だけでなく、海外との窓口としても活躍してきた港だと分かります。

1990年には特定重要港湾に昇格し、博多港国際ターミナルや中央ふ頭クルーズセンターが供用開始したことで物流や人流ともに世界を結ぶ国際港として発展しています。

■物流拠点と市民の憩いが融合した港へ

博多港の近くにある『西福岡マリーナマリノア』では、取材として博多を一望するクルージングを体験させていただきました。船の上から見た博多は、港と一体化した街であると感じました。調べてみると、博多港では市民が海に触れ、親しめる水辺空間づくりを進めているそうです。海岸に沿って遊歩道や砂浜などを整備し、多くの市民が散策を楽しめるよう工夫されています。

博多港では環境共生への取り組みとして、香椎パークポートに「みなと100年公園」、アイランドシティには外周を緑地にするなど緑地の整備も行い、ヒートアイランド現象の緩和、CO₂削減にも寄与しているそうです。また、日本一のエコターミナルを目指し、従来では軽油を燃料とした荷役機器を、環境に負担をかけない高効率で低コスト・低炭素の電動化機器に切り替えています。現在では、蓄電池を搭載することで全くCO₂を排出しない完全電動型8基を含む、全22基の電動トランスファークレーンが稼働しています。環境を考えた取り組みが進められ、公園としての機能も併せ持つことで、博多港は地元の方々に憩いの場として愛されていることが分かります。

博多港は現在、経済や産業の成長とともに、年々コンテナ取扱量を増やし続けています。さらに、国際海上輸送のトランクリンにも面しているため、世界各地の港とも繋がりが深く、姉妹港や友好港など世界中にネットワークを広げている港です。開港後100年以上を経た今も、アジアや世界と日本を繋ぐ重要な港として発展しています。

「海員だより」

0-0-0-0-0-0-0-0 プロフィール ◆ 属安紀奈 (さっかあきな) 0-0-0-0-0-0-0-0

山口県周南市出身。モデル。

「多様性の重要性を発信したい」「地元に何か貢献できれば」と思い、ミス日本コンテストに応募。2020ミス日本コンテストではファイナリストとなるも受賞を逃し、今回、2度目の挑戦でミス日本「海の日」に輝いた。

趣味はピラティスや自宅トレーニング。座右の銘は『みんなちがって、みんないい』。